くすり博物館だより　第26号〔特別展記念号〕1992(平成4)年2月
NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY
内藤記念くすり博物館　〒501-61　岐阜県羽島郡川島町　Phone:058689－2101

特別展「目で見るくすりのあゆみ」より

英国・科学博物館　スイス・バーゼル大学薬学史博物館コレクション

△薬　箱　　19世紀　英国　30×29×29(cm)
本のように開くと、引出しにたいへん工夫をこらしていることがわかります（左の写真は背面)。

このたびの特別展「目で見るくすりのあゆみ」においては、英国・科学博物館より46点、スイス・バーゼル大学薬学史博物館より14点の資料をお借りしています。両博物館とも、このように海外へ医薬に関する資料を貸し出すことは珍しいことだそうです。

健康への関心が高まっている今、この貴重な資料から、病気との戦いの歴史の中で先人たちがいかに努力してきたかを感じとっていただけたら幸いに存じます。

貴重であると同時に大変美しい資料を誌上にてご紹介いたします。

川島会場　**内藤記念くすり博物館**
会期：1991年10月29日(火)～1992年2月23日(日)
主催：内藤記念くすり博物館，内藤記念科学振興財団
後援：英国大使館，英国・科学博物館，ウエルカム トラスト
協賛：エーザイ株式会社

東京会場　**国立科学博物館**
会期：1992年3月7日(土)～1992年4月5日(日)
主催：国立科学博物館，内藤記念科学振興財団
後援：文部省，厚生省，英国大使館，英国・科学博物館，ウエルカム トラスト，東京都教育委員会
協賛：エーザイ株式会社

▲は英国・科学博物館より、▲はスイス・バーゼル大学薬学史博物館より貸出しされた資料です。

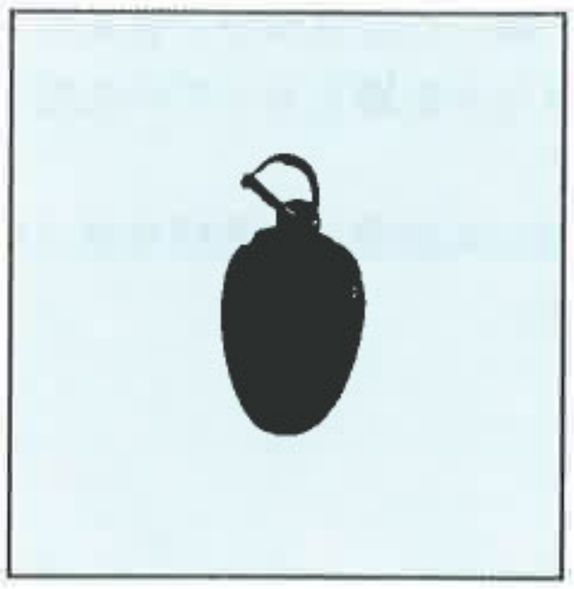
祈りとまじない

多産の神 ▲
B.C. 4～A.D. 4世紀　ローマあるいはエジプト　5×11×12(cm)
豊かな実りと子孫繁栄を祈る多産の神ハルポクラテスを表していると言われています。

ゴア・ストーン ▶　∅9cm
精巧な銀メッキのケースに馬糞石(ヘイサラバサラ)が入れられています。馬糞石は、西洋では万能解毒薬として有名で、これに触れさせて料金をとる商売が流行したほどでした。

安産のお守り ▲
18世紀　5×9×1.5(cm)
聖人フランシスコ・ザビエルの骨が入っている安産のお守りです。

安産のお守り ▼
18世紀　3×1.5×0.8(cm)
マラカイト(孔雀石)の緑色のお守りです。



◀ **ポマンダー**

▲ **ポマンダー**
17世紀～19世紀 ∅4×6(cm)
香料などをこの容器に入れておき、身につけてその匂いで病魔を近付けないようにしたと言われています。

▲ **ポマンダー**　17世紀　オランダ　∅2.5×5(cm)
容器の上部を回すと球形の部分が花びらのように8つに分かれて開き、それぞれに香料が入るようになっています。この香料のにおいで病魔を近付けないようにしました。

▲ コレラよけのお守り
19〜20世紀　ペルシャ　7×8×0.5（cm）
緑色の硬玉でコレラをよける
魔力を持つとされていたもの
です。

◀ まじないのベルト
19〜20世紀　西アフリカ　全長30cm
コレラをよけるための赤い皮製のベルトです。

▲ 木製の仮面
18〜19世紀　スリランカ　14×16×21（cm）
壊血病を予防するための仮面と言われています。

▼ まじないのネックレス
20世紀　北アフリカ　全長20cm
呪術医が、胃の痛みを治すものとして売っていた
ネックレスです。

▼ まじないのネックレス 19〜20世紀　コンゴ　全長48cm
呪術医が用いたもので、動物の毛の入った皮のケースがついています。

木製の仮面
18〜19世紀　スリランカ
マラリアを予防する仮面と
言われています。

12×18×32（cm）▶

◀ 11×19×38（cm）

昔のくすりと薬箱

◀ **エジプトの化粧壺入れ**
B.C.16～14世紀　⌀4.5×6（cm）
アラバスター（雪花石膏）でできています。古代エジプトではまじないと薬用の両方の目的からアイシャドウをしていました。

◀ **軟膏入れ**
B.C. 6 ～ 3 世紀
ギリシア　銀製
⌀ 4 ～4.5（cm）

ヒトの頭蓋骨（粉末） ▲
14世紀　容器⌀ 4 ×12（cm）
ヒトや動物の頭には神聖な力が宿ると信じられていたので、まじないの意味を込めてくすりとして用いられたのでしょう。

▲ **楔型文字の刻まれたレンガ**
B.C. 7 ～ 6 世紀　10×18× 4（cm）
バビロニアの廃墟から出土したものです。
このようなレンガには、病気やケガのときの処置やくすりについて書かれたものがいくつかあります。医薬についての知識は、ひじょうに重要だったので、しっかりと記録されたのでしょう。

キナ皮の標本 ▲
⌀ 5 ×20（cm）

◀ **ヒトのミイラ**（大腿部分）18世紀⌀ 5 ×50（cm）
エジプトからヨーロッパに入ってきたものと思われます。ミイラは古くから薬用として用いられてきたようです。

▲ **刻印のある薬用粘土**
時代・国名とも不詳　⌀1.5～2.5（cm）
薬用粘土は、紀元前 3 世紀から用いられていました。
表面に商標が刻まれています。

トラクターケース
9 × 2（cm）

トラクター
8 ×0.8（cm）

はたして効きめは？

▼ *パーキンスのトラクターとその広告*　19世紀

この道具は銅製と亜鉛製の棒を身体にあてると、その間に電流が流れ、病気を治すという治療に用いられました。右の広告は、病気が治った人からの感謝の言葉が書かれています。
23×29（cm）

◀ **薬箱**
19世紀　英国　19×25×24（cm）
お医者さんの往診用薬箱です。マホガニー製で、持ち運ぶときを考えて、四角のくすりびんが使われています。

◀ **家庭用薬箱**
18世紀 スイス東部 30×20×17（cm）
全部の面に美しい柄が描かれています。このような薬箱があれば、病気のときにも心強かったことでしょう。

◆**乳鉢**◆
くすりの粉をすりまぜる道具です。普通は乳棒とセットになっています。

▲ **乳鉢**
15～18世紀 ヨーロッパ ∅28×28（cm）
石製で、神獣の浮き彫りがほどこされています。

▲ **乳鉢** 16世紀 英国 ∅24×19（cm）
ブロンズ製で、所有者か製作者の名前Thomas-Bakerと銘が入っています。

▲ **乳鉢**　16世紀　英国　∅16×15（cm）

▲ **乳鉢**　17～18世紀 英国 ∅34×26（cm）

くすり壺のいろいろ

◀ テリアカの壺
18世紀　イタリア
∅23×45（cm）

薬局のくすり壺 ▶
19世紀　イタリア　∅13×23（cm）
イタリアの有名なマジョリカ焼の陶器製のくすり壺で、水銀軟膏を入れました。

▲ テリアカの壺
19世紀　イタリア
∅13×23（cm）

◆ テリアカ ◆

B.C. 3世紀にポントス王ミトリダテス6世（別名「毒薬王」）が毒殺から身を守るために考案した万能解毒薬。処方する薬の種類が多いほど効果があると信じられ、中世頃には100種類もの原料を混ぜたと言われています。18世紀ごろまで用いられました。
中国や日本にもその名は伝わり、医薬について書かれた書物には「底野迦」という名が見えます。

▲ テリアカの壺
18世紀　オランダ
∅17×28（cm）

▲ テリアカの壺
18世紀　オランダ　∅21×31（cm）

▲ 薬局のくすり壺
18世紀　英国　∅22×24（cm）

薬局のくすり壺 ▶
17世紀　イタリア
∅22×28（cm）
からしを入れたいろあざやかなくすり壺です。

◆ キニーネとマラリア ◆

キニーネは、キナという植物の樹皮から作られたマラリアの特効薬です。熱病にかかった人が溜まり水を飲んだところ回復したためその溜まり水を調べたらキナの木がその水の中にあった、などという伝承がのこるほどの効き目でした。

▲ キナ抽出物を入れたくすり壺

18～19世紀 イタリア ∅8×9(cm)
イタリアのマジョリカ焼という陶器製のくすり壺です。

▼ キナ抽出物を入れたくすり壺

18世紀　オランダ　∅13×18(cm)
オランダのデルフト焼という陶器製のくすり壺です。

◀ 薬局のくすり壺

18世紀　イタリア　∅11×27(cm)
マジョリカ焼のくすり壺です。僧侶とはりつけの場面が描かれています。

薬局のくすり壺 ▶

18世紀　イタリア　∅11×27(cm)
別荘の絵が描かれたマジョリカ焼のくすりの壺です。

◆ 瀉血法（しゃけつほう）◆

昔、からだの中の悪い血を出せば病気が良くなると考えて、瀉血法という治療が行われました。その方法の一つにヒルに血を吸わせる方法がありました。

▲ 薬局のヒル容器

19世紀　英国　∅30×29(cm)

▲ 薬局のヒル容器

19世紀　英国　∅28×43(cm)

◀ 薬局のくすり壺

16世紀　イタリア　∅13×16(cm)
流産の予防薬を入れました。ゴシック文字で「伯爵夫人の軟膏」と書かれています。

医療の発展

◆痛みの克服◆

昔、頭から病魔を追い出す目的で、生きている人間の頭に孔をあける穿頭術という手術が行われました。もちろん、この頃は痛みをやわらげるくすりはあっても、全く無痛という訳にはいきませんでした。

◀穿頭術の実験を解説した写真
1は火打ち石でけずりとる方法。2は黒曜石で円形のみぞを掘って、骨を取りのぞく方法。ヨーロッパで先史時代に行われました。3は錐で小さな穴をあけて、のみで骨を取りのぞく方法で、アラビアなどで行われました。4は主にペルーで行われた方法で、のみと槌で四角の穴をあけました。

▲穿頭術の実験の道具 20世紀 英国　頭蓋骨の直径23cm
英国で20世紀に穿頭術の実験が行われました。このときに使われた道具と頭蓋骨です。

◆エーテル麻酔の発見◆

19世紀半ば、エーテルが麻酔として使われるようになり、アメリカのモートンを始めとする多くの医師・学者らの努力によって、外科手術は急速な進歩をとげました。

◀エーテル吸入器
19～20世紀
9×18×22（cm）エーテル麻酔の際に用いられた吸入器です。

◆消毒方法の提唱◆

19世紀にハンガリーのゼンメルヴァイスが手術の前に手を洗い消毒を行うことをよびかけ、20年後に、イギリスのリスターが石炭酸消毒を提唱した結果、手術の際に感染によって死亡する人が減少しました。

リスターの
石炭酸噴霧器▶
19世紀 16×27×35（cm）

◆天然痘根絶への道のり◆

昔から多くの人々が、天然痘で命を落としてきました。ジェンナーは、農村での言い伝えをヒントにワクチン療法を確立させ、そのおかげで1979年には天然痘は地球上から姿を消しました。人間が病気を撲滅させた最初です。

◀ジェンナーの肖像 英国　45×45（cm）

◀ジェンナーの
ランセット
19世紀　9cm
ジェンナーの遺品と言われています。

館長　藤田　孟　　学芸員　稲垣裕美（編集担当）　　学芸員・司書　野尻佳与子　伊藤恭子
庶務　川瀬麻起子　　説明員　高橋千寿　　薬用植物園長　逸見誠三郎　　顧問　青木允夫
内藤記念くすり博物館　　9：00～16：00開館　　月曜・年末年始（12／28～1／8）休館